

き た は ら

喜多原だより

NO. 85

令和7年3月吉日発行

福生中学校いずみ分校 吉村教頭挨拶

中学3年生と小学6年生のみなさん、御卒業おめでとうございます。そして、他の学年のみなさんも今年度の教育課程の修了おめでとうございます。

4月の始業式で、私は「昨年度までのことを反省したり、修正したりすることは大切ですが、過去ばかりにとらわれず、より良い自分となるように、ちょっとずつでも成長していける1年間にしていきたいと思います。」という話をしました。2学期の始業式では、「ごく近い将来、小学校・中学校を卒業したあとの自分がどうありたいのかをイメージしながら生活していきたいと思います。」という話。そして年明けの3学期始業式では、「『終始』という言葉があるように、まずは今年度の目標としていたことをしっかりとクリアしてから1年間を終えましょう。それが来年度のスタートを切るときの大きな力になるはずです。」という話をしました。

始業式での話なんていちいち覚えてないかもしれませんが、ことあるごとに私は、その時々目に見えることだけにとらわれすぎず、近い将来でも遠い将来でも良いので、これからの自分がどういう自分でいたいのかということに目を向けてほしいと伝えてきたつもりです。

当然、生まれ育った環境も違えば、成長速度にも個人差があり、感じ方や考え方も人それぞれに異なるので、みんなが同時に何かを達成したり、習得したりする必要はありません。大人に近づけば近づくほど、同じことをすることが少なくなっていく、逆に自分で選んだことをすることが増えてくるはずです。大切なのは、これから長く続く人生であなたが関わることやあなた自身を、自分らしいものにしていけるかどうかです。義務教育で学ぶことはそのための土台やきっかけでしかありません。もし今までの学びが、自分の土台やきっかけとするには不十分だと感じるなら、いつでも学び直すことはできるし、いくらでも再挑戦することはできるのです。反省すべきは反省し、修正すべきは修正しないといけないのですが、勉強が苦手だからとか、大きな失敗をしてしまったからと言って、まだ10数年しか生きていない自分を、あきらめたり、卑下したりする必要はまったくありません。

これまで、みなさんを支えてくれた人、一緒に悩んでくれた人、指導してくれた人、応援してくれた人がたくさんいるはずです。そういった多くの人たちの思いを忘れないように…なんて恩着せがましいことは言いません。しかし、みなさんが自分らしい生き方を見つけ生活していくなかで、今度はみなさんが、身近な誰かの支えとなっていたり、希望となっていたりしてくれたら、みなさんに関わったひとりの大人として、これほどうれしいことはありません。今後のみなさんと、みなさんの近くにいる人たちに、「自分って幸せだなあ」と思える日がたくさん訪れることを願っています。



(米子市立福生中学校いずみ分校教頭 吉村崇志)

卒業生へ贈る言葉(分校職員)

ご卒業おめでとうございます。一緒に楽しく数学の授業をしたり運動をしたりしたことが懐かしく思い出されます。みなさんの成長を間近で見ることができて、とても嬉しく思っています。卒業後は、これまでお世話になった方たちへの感謝の気持ちを忘れずに、それぞれの目標に向かって努力してってください。また、新たな出会いも大切にして、気の合う友だちや、「あんな人になりたいな」と思えるような先輩や先生、上司など、信頼できる仲間の輪をひろげて行ってほしいと思います。これからも応援しています。

(福生中学校いずみ分校 山根壮平)



入所した頃を振り返ると、気持ちの言語化ができない、集団の中に入れない、感情のコントロールができないなど様々な生きにくさを抱えていたと思います。自信がなく「私なんか、僕なんか…」と言っていた生徒が、今では生徒会の役員に立候補したり、県立の特色選抜入試にチャレンジしたりと見違えるように成長してくれました。

これからがスタートです。学園で経験したことがあなたたちにとって大きな糧となります。何事にもチャレンジ精神でぶつかって行ってほしいと思います。卒業おめでとう！

(福生中学校いずみ分校 先東淳子)



「卒業おめでとう！」の一言だけでは、伝えきれないほど君と過ごした日々はとても濃いものでした。たくさんの笑い、たくさんの喜び、そしてたくさんの宿題。この一年間でこんなにも「たくさん」を共有できたことに感謝しています。これからは、いよいよ中学生。これまで積み上げてきたたくさんの努力は必ず君の役に立ちます。そして、その努力を決して止めないでください。またいつか、どこかで会えたならそのときはまた2人で語り合いましょう。卒業おめでとう。そして、ありがとう。

(福生東小学校分教室 遠藤佑斗)



学園・学校の取り組み紹介

▼今回は「こたか保育園交流」の取り組みについてご紹介します！

喜多原学園では、地域交流の一環として年に3回こたか保育園の年長さんと学園児童で交流しています。さつまいもの苗植えや芋ほり、レクリエーションなどをして交流を深めています。

(※芋ほりは悪天候のためレクリエーションに変更)

12月は、お別れ交流会と称し、学園児童がこたか保育園さんに出向き、出し物を披露しました。中学生チームは家庭科の授業の中で制作したペープサートを、小学生チームは手作りのお花の首飾りをプレゼントしていました。学園児童のオリジナリティーあふれる出し物に園児さんたちの喜びの声が聞かれ、終始和やかな交流会でした。こたか保育園の年長さんからの太鼓の披露では学園児童も柔らかい表情で真剣に鑑賞しました。別れを惜しむ姿もありましたが、互いに4月から新たな道に進む者同士これからの健闘を称え合いました。

1年間のこたか保育園さんとの交流を通じて学園児童の成長した姿を見ることができました。

(女子寮職員 朝倉梨花)

喜多原学園の子どもたちにとって、地域の人と関わる機会は非常に少ないので、この3回の「こたか保育園交流」は、貴重な体験だと言えます。交流では、子どもたちが、園児たちに目線を合わせるようにしゃがんだり、優しく声かけをしたりして、園児たちの笑顔を引き出していました。その姿を見るだけで、私たちも温かい気持ちになりました。これからも色々な形で地域の人達と交流する機会が増えていくと嬉しいです。(福生中学校いずみ分校 並里育子)

5月:サツマイモ苗植え



10月:サツマイモほり



10月:レクリエーション



12月:お別れ交流会



学園行事の紹介

▼サックスコンサート

昨年に引き続き、今年もサックス・オカリナ奏者の大原章子さん、後援会副会長の鶴木真理子さん（オカリナ演奏）、元喜多原学園長・後援会役員の中川正純さん（ハーモニカ演奏）に来園いただきました。様々な楽器で美しい音色をご披露いただき、児童も職員もとても癒され、楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました♪

（男子寮職員 中島萌々子）



▼クリスマス会

12月25日に学園のクリスマス会が開催されました。クリスマス会では、子どもたちや分校先生方、職員の発表をしました。今年はバンド発表、絵描きチャレンジ、リフティング、弾き語り、学園にちなんだクイズ、児童オリジナルの劇、けん玉、マジックショー、歌とダンスの融合など様々な出し物が披露されました。子ども、おとなそれぞれの「できること、得意なこと」の披露の場になりました。みんな、堂々と発表し、普段の寮生活や学校生活では見られない姿を見ることができました。当日の準備、片付けも皆で協力して行うことができました。

（女子寮職員 落合知香）

<児童感想>

わいわいしてて良い雰囲気のなかで発表できたので楽しかったです。ご飯も美味しかったです。

（男子寮 Mさん）



▼餅つき体験

年末に毎年恒例の餅つきをしました。今年度は田植えや稲刈りでもお世話になっている地域の方々を招き、餅つきの手順を教えてくださいました。餅つきベテランに来ていただいたおかげで、スムーズで迫力のある餅つき体験になりました。最後は、つきたてのお餅でお汁粉と黒蜜きなこ餅を作り、みんなで楽しくいただきました。

(女子寮職員 青戸優里)



▼とんど

年明け三学期始業式の日、とんどを行いました。子どもたちにとんどの意味を伝え、年男4人が着火しました。男女寮それぞれで書いた書初め、希望児童と作って本館や寮に飾ったしめ縄飾りやお餅を一緒に焼きました。しめ縄飾りに使用したわらは、ここ何年も継続して行っている伯耆町吉定区農業生産組合との田んぼ体験交流で育てた稲のもの、お餅はその稲のもち米を年末の学園餅つきでついたものです。今年の恵方の西南西にご神木を倒し、お餅は砂糖醤油でみんなでおおいしくいただきました。みんなの願いが煙といっしょに天に届いたかな。今年もみなに幸多からんことを祈ります。

(女子寮職員 堀江健太郎)

〈児童感想〉年男で木を倒しました。火の近くで暑かったです。

(男子寮 S さん)



▼スキース/ボ体験

毎年、冬になると大山ヘスキー・スノボ体験に行きます。児童には、スキーかスノーボードか選んでもらい、児童、職員、分校先生で滑りました。初めてスノーボードに挑戦する子、繰り返しスキーにトライする子もありました。それぞれチャレンジして、滑れるようになっていたり、楽しんで滑っている姿が印象的でした。何度転んでも諦めずに練習していたり、豪円山から上の原、中の原へと傾斜が急なコースに挑戦していく姿が素敵だなと思いました。大山ホワイトリゾートの方々にお世話になり、毎年貴重な体験ができています。感謝の気持ちを持ち、来年も準備をしたいと考えています。

(女子寮職員 谷野純麗)

〈児童感想〉来年は受験生だけに行きたい。楽しすぎた。中の原の一番上から見える景色が良かった。

(男子寮 S さん)



生徒会の活動紹介

今年度の生徒会は『児童みんなで作る』を意識して活動を重ねてきました。例年のように生徒会を主軸とした運動活動や清掃活動はもちろん、学園集会のなかで児童一人ひとりの意見や思いを汲み取る時間を設けています。生徒会役員も『みんなで』の意識をもって活動し、とても頼れる存在になりました。

(男子寮職員 影山健太)

〈児童コメント〉

5月くらいから、会長をやらせていただきました。様々な活動を行ってきました。特に力を入れて頑張ったことは、生徒会活動です。2ヶ月に1回くらいやることが出来て、やる度に他の生徒の子達の笑顔が見られてやりがいを感じる事が出来ました。私は、生徒会のお陰で人と関わる大切さを知り、一人ひとりの優しさにふれることができ、それによって自分も周りも笑顔があふれて沢山の幸せや大切なものがつかめました。生徒会の仲間には感謝しかないですし、応援してくださる先生方にも感謝しかないです。生徒会は、一人ひとりが輝けて、仲間を大切にしてくれる所です。そんな生徒会が、大好きです！

(生徒会長 女子寮 Kさん)



生徒会活動の「バレーボール大会」★

1年をふり返って…

この一年を振り返ってみると、大雨の中の出雲ドームでの野球大会、駅伝準優勝チームとなった岡山県立大学での駅伝大会、中3と小6の県外で過ごした思い出深い修学旅行、太鼓とダンスが素晴らしかった園遊会など、他にも沢山の行事がありそれぞれ印象に残っていますが、そうした行事を取り組む上で、行事の無い普段の何気ない生活を、周りに流されずに一つ一つ丁寧に送れるようにすること、このことがとても大切だと思っています。それぞれ入所して間もない頃と比べると、自分の思いを言葉に表すこと、相談すること、が少しずつできるようになってきていると感じています。これからは周りの人たちへの感謝の気持ちも忘れずに、次のステップへと進んでほしいです。

(男子寮副寮長 藤原敦)

今年度の女子寮は「気持ちを伝えあう、受け止めあう」、「それならみんながいいよね」でやってきました。また、月に数度 MTG (ミーティング) を行い、それぞれの大事にしたいものをみんなで大事にする、誰かの「こうしたい」をみんなで実現する、それぞれがみんなのために力を出していくことを目指し、気持ちや考えを伝えあい、それぞれ自分に何ができるかを考えました。子ども同士、子どもと大人の関係性のあつれきも多々起こりましたが、それに一緒に向き合うことにこそ意味があると捉え、それぞれの力を出し合って、みんなで受け止め合って乗り越えてきました。

今年も一人ひとりのこの一年の姿に、感謝とリスペクトを贈ります。

(女子寮副寮長 堀江健太郎)

後援会関係

クリスマスケーキを寄付していただきました。

更生保護女性会の皆様、株式会社マイスターの皆様からクリスマスケーキを寄付していただきました。
 児童たちは大喜び！幸せそうにケーキを食べ、クリスマスの楽しい雰囲気を楽しんでいました。
 その他にも皆様からの温かいご支援に日々、救われ温かい気持ちにいただいています。
 心を寄せてくださり、ありがとうございました。



会員・会費募集案内

喜多原学園では随時、後援会の会員・会費を募集しています。

ご支援が学園で暮らす子ども達の支えになります。

【会費振込先】（口座名）鳥取県立喜多原学園後援会（口座記号）01440-2 （口座番号）4066
 ※一口 1,000 円から募集しています。趣旨にご賛同いただける方はご協力よろしくお願いいたします。

令和7年度年間行事計画（予定）

4月	観桜会、遠足	10月	バレー大会
5月	米作り体験、こたか保育園交流	11月	園遊会、駅伝大会
6月	田植え	12月	クリスマス会、餅つき
7月	野球大会	1月	とんど、スキー体験
8月	海水浴	2月	スキー体験
9月	キャンプ、大山登山	3月	卒業式、終業式

※12月～2月頃、児童向け講座や外部講師による研修等を計画予定。

※変更の可能性あり。

～児童在籍情報～ ※R7年3月1日時点

小学生		中学生		中卒生		計
男子	女子	男子	女子	男子	女子	
2名	0名	7名	2名	1名	0名	12名

編集発行

鳥取県立喜多原学園

鳥取県米子市泉706

TEL 0859-27-1101

FAX 0859-27-1611

編集後記

喜多原だより No.85号を作成させていただきました。この1年も、子ども達と一緒に様々な経験をして沢山の思い出を作ることができたと感じています。涙の日も笑顔の日も一生懸命生きていた子ども達の勇士を、少しでも皆様へお伝えていきたいらうれしいと思います。春には進級を迎えることも達。みんながまた笑顔で次のステージへ進んでいけるよう、職員一同引き続き子ども達を応援していきます。喜多原だよりと合わせて HP も随時更新予定です。見ていただけたら幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。